

花ちゃん・オー君・モンタ博士・フタタ博士のくわくドド冒険記

国立市立国立第七小学校

平成30年1月22日 NO.90(490)



すばる（昴・プレアデス星団）

花ちゃん 「うわあー。きれいな星ですね。」

オー君 「何というのかな。」

モンタ博士 「これはね、『すばる』という星さ。正しくはプレアデス星団ともいうんだ。」

花ちゃん 「それにしてもきれいな星たちですね。今見ることができるのですか。」

モンタ博士 「もちろん。モンタ博士は、冬の星の中では、オリオン座の次に好きだね。」

オー君 「こんなにきれいに見えるのですか。」

モンタ博士 「これは大きな望遠鏡で撮影したものだからだけど、このすばるは、けっこう簡単にみることができるんだよ。普通の視力の人ならば、6つか7つは見ることができるよ。」

花ちゃん 「天体望遠鏡がないとだめなんですか。」

モンタ博士 「そうではないんだ。このすばるは、双眼鏡で見るのが一番いいね。星の集ま

りがきれいによく見えるよ。それから、^{そうがんきょう}双眼鏡があると、^{やちょうかんさつ}野鳥観察にも使えるから、おうちに1つあるといいね。」

オー君 「はい、^み見ます。それから、『すばる』は『すべる』ではないでしょ。どうして『すばる』という^{なまえ}名前なのですか。」

モンタ博士 「^き聞いてくれるのも待っていたよ。すばるの語源はね、^ま漢字の『統・総』などを使って^{つか}書くんだ。つまり、^{あつ}集めるとかまとめるとかの^{い み}意味なんだ。^{ほし}星が^{あつ}集まるとか、まとまっているということなんだよ。」

花ちゃん 「ところで、すばるはどこにあるのですか。」

モンタ博士 「この^{まえ}前の『^{こくりつ}国立てくてく』のインス

タントプラネタリウムのお話^{はなし}の^{とき}にもお伝えしたけど、^{みぎ}右の^え絵をよく^み見てね。」

オー君 「^{さいご}最後に^{しつもん}質問ですが、^{くるま}スバルって、^{かいしゃ}車の会社でありますね。マークが六つの星になってますね。それはどうして？」

花ちゃん 「それから、^{すばる}昂って、^{うた}歌にもあったような^き気がするんですが・・・。」

モンタ博士 「そうだね。これからは、^{じぶん}自分でもっともっと^{しら}調べてごらん。きっと^{たの}楽しいことやおもしろいことがいっぱい^{おも}わかると思うよ。」

花ちゃん 「はい、わかりました。さあ！オー君！^{さむ}寒い^{さむ}寒いなんて言っていないで、^{ほしぞらんかんさつ}星空観察に行きましょう。」

オー君 「そうだね。そうしよう！^{ほしぞらんかんさつ}星空観察は、『^{いま}今でしょ！』だもんね。」

よく耳にする『星はすばる』との言葉は

この言葉は、平安時代の女流作家である清少納言が、『枕草子』の中で記されているものである。原文をそのまま記すと、『星はすばる、彦星、夕筒。よばい星、少しをかし。尾だになからましかば、まいて・・・。』である。訳は、『星はすばる、彦星、宵の明星が良い。流れ星も少し趣がある。尾を引かなければもっと良いのだが』と言う事らしい・・・、

前々号の「不思議な雲」について・・・正しくは「^{さいうん}彩雲」というそうです。ネット検索すると、その形成の理由や美しい写真がたくさん見られます。この画面は、ぜひ学校ホームページでご覧ください。

